


分野	51	環境共生
施策	511	西山の整備
5年後の目標	市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	西山における森林保全活動の推進・啓発事業		会計	款	項	目	1,500,000	農林振興課
			一般	6	2	1		
事業の概要								
改定した西山森林整備構想に基づき、具体的な森林整備方針を定め、産官学民連携の組織である西山森林整備推進協議会と連携して、ボランティア運動と森林保全活動の推進と啓発を促進します。								


平成29年度の取組							
D (取組)	指標	森林ボランティア団体数				単位	団体
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
		目標	22	22	23	23	24
	21(平成26年度)	実績	22	23			
<ul style="list-style-type: none"> ・「西山森林整備構想」に基づき、西山森林整備推進協議会と連携して、京都モデルフォレスト運動による森づくりへの支援や、自然環境調査、環境教育事業など、関係団体や関係機関が実施する西山での活動への支援を行いました。 ・竹林や森林整備のボランティア活動に関心がある人を対象に、実際の活動に触れる機会としてボランティア養成講座および活動体験会を開催し、活動に入りやすい環境づくりのための調整を行いました。 ・清掃活動を森林整備の一つの方法として提案する西山クリーン&グリーン大作戦の開催など、西山の抱える現状と西山森林整備推進協議会の活動について情報発信を行いました。 					西山クリーン&グリーン大作戦 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・森林ボランティア養成講座などの啓発事業を継続的に実施することで、森林整備活動に関心を持つ人と既存の団体との関係性の構築に繋がり、新しく1団体が森林整備のボランティア団体として活動を開始しました。	—
	課題等	・ボランティア団体において、会員の高齢化と後継者不足が課題となっています。			—

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当		・西山森林整備推進協議会の組織が成熟し、産官学民が連携して森林整備に関する啓発事業は目標通りに進行しています。今後も引き続き、ボランティア養成講座やイベント出展などの啓発事業を通じて、各団体への新規加入を呼び掛けていくなど、活動を継続していくための支援を行っていきます。

分野	51	環境共生
施策	511	西山の整備
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	西山における森林整備推進事業		会計	款	項	目	18,273,138	農林振興課
			一般	6	2	1		
事業の概要								
西山の森林機能を維持・回復させるとともに、生物の多様性を保持するため、西山森林整備構想を基本として環境面や公益的観点に配慮した整備を継続的かつ適正に実施します。								


平成29年度の取組								
D (取組)	指標	西山森林整備面積(累計)					単位	ha
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32	
	261.68 (平成26年度)	目標	280.0	288.0	296.0	304.0	312.0	
		実績	282.0	295.0				
<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市森林組合に業務委託を行い、森林整備を合計13.05ha実施しました。 ・人工林については、3.08haの間伐、2.21haの除伐を実施し、併せて間伐した材を活用するため215.3mの施業路を開設しました。二次林については、5.70haの改良を行いました。竹林については、拡大する竹をライン状に伐採し最前線を押し戻す1.98haの線的整備と、過去の線的整備地で新たに発生したタケノコ等を伐採する維持管理を行うとともに、竹林の面的整備を0.08ha実施しました。また、森林病虫害等による枯死した危険木の伐倒処理を77.49㎡実施しました。 ・ふるさと納税を活用し、カブトムシやオオムラサキなど多様な生き物が暮らす森を再生する「京都西山再生プロジェクト」をスタートさせ、120本の植樹及びそれに伴う不要木の伐採と防護柵の設置を行いました。 						拡大竹林線の整備 整備区域		
								

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・平成27年4月に改定された「西山森林整備構想」と併せて作成されたゾーニング資料に基づき、西山森林整備推進協議会に整備方針を提案し承認を得た上で、環境林整備事業補助金や森林環境税などの財源を活用し、森林整備を進めた結果、目標を達成することができました。	209
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・西山森林整備構想の整備方針に基づいた西山に相応しい整備方法を継続的に検討する必要があります。 ・森林の水源涵養機能の低下や土砂災害の危険性が増すため、拡大竹林の整備を引き続き行う必要があります。 ・森林整備の円滑な推進や資源の循環利用に資するため、今後も引き続き間伐材の搬出を考慮した施業路の整備が必要です。 			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
1: 計画通りに進めることが適当	対応策等 <ul style="list-style-type: none"> ・過去に実施した森林整備地の検証を行うとともに、西山森林整備構想を指針として西山に相応しい森林整備方法を継続的に検討し、持続可能な森林整備を実施します。 ・森林環境税やふるさと納税など様々な財源を活用することで森林整備費の確保を目指します。 ・森林所有者の合意を図りつつ、施業路の整備を行うことで、材の搬出と利用を推進します。

分野	51	環境共生
施策	511	西山の整備
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	木竹資源の利活用事業		会計	款	項	目	—	農林振興課
			—	—	—	—		
事業の概要								
市内で伐採された木材を公共建築物や内装材、調度品、薪などへ多種多様な利用を図るとともに、竹林整備により発生した竹材を竹粉や竹チップとして有効利用を進め、資源循環利用の仕組みづくりを推進します。								

平成29年度の取組							
D (取組)	指標	竹粉・竹チップの活用量(累計)				単位	m ³
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	平成27年度 新規事業	目標	36.0	52.0	68.0	84.0	100.0
		実績	64.3	74.1			
<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設を管理する関係部署に、防草剤としての竹チップ活用の働きかけを行った結果、累計74.1m³の竹チップを導入することができました。 ・平成27年度実績：産業文化会館20m³、西山公園2m³ ・平成28年度実績：西代里山公園20m³、東第二浄水場19.8m³、西山公園2.5m³ ・平成29年度実績：東第二浄水場9.8m³ ・また、木材の利用実績として、平成29年度は、神足保育所の内装材や西代里山公園のテーブルやイス、スポーツセンターのテーブルとベンチ、図書館のイス、ふるさと納税の掲示板及びネームプレート、市議会の室名札及び議員名札、西山森林整備推進協議会のコースター、DIYワークショップの原材料、メモスタンド、公共施設等に設置するベンチ10基分を納品することができました。 						竹チップ敷設箇所(東第二浄水場)	
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・平成26年度に補助金を受けて竹チッパーを導入した京都中央農業協同組合と連携し、伐採竹のチップ化を推進するとともに、公共施設を管理する関係部署へ防草剤として竹チップ導入の働きかけを行った結果、目標を達成することができました。	—
	課題等	・敷設してから3年目以降など、長期的に防草効果を持続させる手法について検証を継続していく必要があります。 ・竹チップや竹粉の他に、竹材の新たな資源としての利活用方法を今後も検討していく必要があります。			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当
	対応策等 ・これまでの実績を足掛かりとし、敷設の可能性がある公共施設等に防草効果のPRを行い、さらなる普及・啓発に取り組んでいきます。 ・竹チップを敷設した公共施設について継続して経過観察を行います。